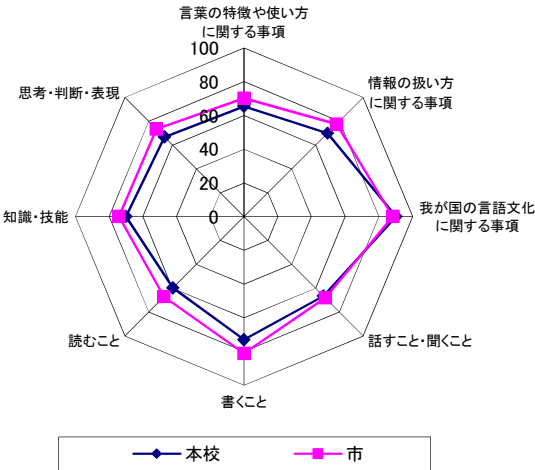


宇都宮市立国本中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	65.5	70.2	64.7
	情報の扱い方に関する事項	70.1	77.6	71.1
	我が国の言語文化に関する事項	90.2	88.3	79.1
	話すこと・聞くこと	66.7	68.2	67.4
	書くこと	73.0	81.1	71.7
	読むこと	59.7	67.2	61.3
観点別	知識・技能	70.0	74.2	67.9
	思考・判断・表現	66.8	73.5	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

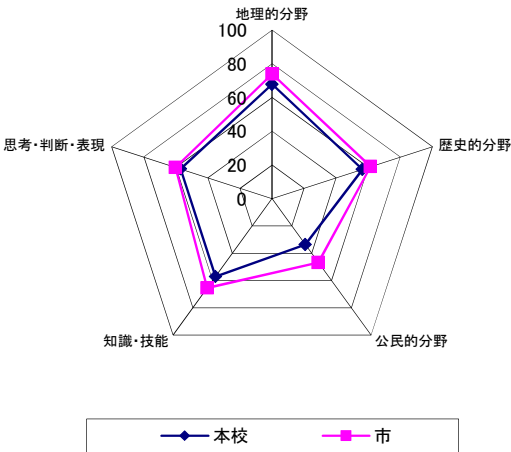
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○漢字の書きについての問題は本校の正答率は参考点を0.8ポイント上回っている。 ●本校の正答率は、市の平均正答率よりも4.7ポイント下回っている。 ●中学校3学年までの漢字の読み、小学校で学習した漢字の書き、についておおむね理解されているものの、市平均を下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・3年間を見通した文法学習のため、繰り返し問題を解き復習し、達成感を積み上げさせることで苦手意識をなくしていく。 ・漢字の読み・書きともに既習漢字がうろ覚えで普段の生活で使いこなせていない傾向がある。定期的に確認テストを行うことを継続し、既習漢字を復習する機会を多く設けることで定着を図る。
情報の扱い方に関する事項	●本校の正答率は、市の平均正答率よりも7.5ポイント下回っている。 ●情報と情報との関係について理解し、論理の展開の仕方を捉えることで7.8ポイント、情報と情報との関係について理解し、自分の考えを分かりやすく文章にすることで7.3ポイント市の平均より下回っている。また、それぞれ9.8%、7.1%が無回答であり、書くことへの不安があると考えられる。	・多くの情報を比較・整理しながら、それらの関係性を考えて論理の展開を捉えるなど、説明的文章を的確に読み取る訓練を、短いものからだんだんとスキルアップして行っていく。 ・情報の関係性を捉える読解の訓練をしながら、多くの情報を比較・整理しながら言語化できるように指導していく。
我が国の言語文化に関する事項	○本校の正答率は、市の平均正答率よりも1.9ポイント上回っている。 ○歴史的仮名遣い、現代語訳を手がかりに古典を読む設問でそれぞれ1.3、2.6ポイントずつ市平均より上回っている。 ●言葉の特徴に分類されているが、古文の助動詞・類義語・敬語のポイントは市平均よりも全て下回っている。	・歴史的仮名遣いや類義語など、古典学習の基礎を再確認し、古典を読む訓練を継続的にやっていく。 ・現代語訳を手掛かりに古典を読む問題は正答率も高く、多くの生徒ができていますので、現代語訳を利用しながら読解への自信を付けさせ、古典への苦手意識の解消を図る。
話すこと・聞くこと	○話の展開を予測して聞くことや、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することではそれぞれ市の平均を0.3ポイント、2.3ポイントずつ市の平均より上回っている。 ●本校の正答率は、市の平均正答率よりも1.5ポイント下回っている。 ●話を聞きながら自分の考えを深めることでは市の平均を6.9ポイント下回っている。	・聞き取りの練習を継続して行うことで、話の趣旨を正確に聞き取る力をつけさせる。また、教師の話や級友の意見を聞きながらメモを取る訓練を継続的にやっていく。 ・授業で話し合い活動を積極的に取り入れ、相手の伝えたいことを正しく聞き取った上で自分の意見を分かりやすく述べられるよう指導する。意識して「聞く」「話す」ことにより話し合いのスキルの向上を目指す。
書くこと	○本校の正答率は参考値を1.3ポイント上回っている。 ●本校の正答率は、市の平均正答率よりも8.1ポイント下回っている。 ●全体的に市の平均を下回っているが、特に自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫する設問では14.5ポイントの差が出ている。 ●「書くこと」領域での無回答が一定数いる。	・自分の考えと根拠を明確にし、具体例や体験を示す練習を多く取り入れ、論理的な文章を「書くこと」への苦手意識を取り除いていく。さらに反対意見に対する反論を示すことで、より文章に強い説得力を持たせるよう指導する。 ・原稿用紙の使い方を改めて確認し、示された型どおりに書く練習をしていく。
読むこと	○説明的な文章、文学的な文章のどちらでも無回答率は低かった。 ●本校の正答率は、市の平均正答率よりも7.5ポイント下回っている。 ●文章を読んで考えを広げたり深めたりしているところで、最大12.2ポイントの市の平均より下回っている。	・筆者の主張とそれを支える根拠（論証）を意識して説明的文章を読もうとすることや、登場人物の言動の意味を考えて心情を読み取ろうとすることができている。しかし、そこから自分の考えを広げ深めることには結び付いていない。多彩な作品にふれる機会を設けるためにも、朝の読書やブックトークを重視し、読書習慣の向上を図る。

宇都宮市立国本中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	67.8	74.0	67.9
	歴史的分野	56.4	61.5	56.1
	公民的分野	33.6	46.9	40.7
観点別	知識・技能	57.2	65.5	60.6
	思考・判断・表現	57.1	60.2	52.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

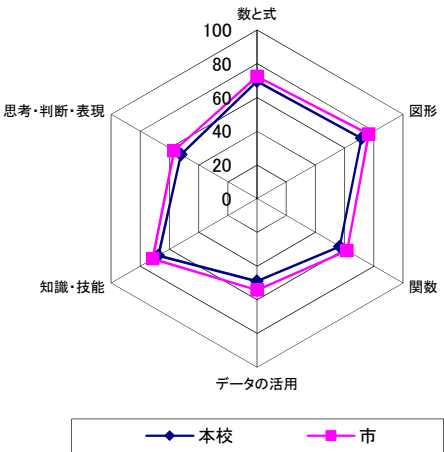
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○九州、中国・四国、近畿地方の工業に関する特色に関する問題は市の平均を上回る正答率だった。 ○「思考・判断・表現」に関する問題は、参考値と比べて高い傾向にある。 ●正答率が67.8%で、市平均を6.2ポイント下回った。 ●本初子午線についての問題は市の平均を下回る正答率だった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な語句の暗記を苦手としている生徒が多いため、授業の前後にワークを活用して反復学習を行っていく ・「地図」「地形」に関する問題の正答率が低いので、生徒がイメージしやすいよう地図を用いての視覚的な指導を多く取り入れていく。
歴史的分野	○「思考・判断・表現」に関する問題は、参考値と比べて高い傾向にある。 ○大阪の繁栄について、まとめの文章に着目して、考察する問題は市の平均を上回る正答率だった。 ●正答率が56.1%で、市平均を5.1ポイント下回った。 ●銅鐸についての問題は市の平均を下回る正答率だった。	・基本的な重要語句の反復学習を行う時間を多くとり、知識・理解の定着に努める。 ・文化に関する問題の正答率が低いので資料集を見る時間を多く取り入れ、視覚的な指導を多く取り入れていく。
公民的分野	○「思考・判断・表現」に関する問題は、参考値と比べて高い傾向にある。 ○さまざまな新しい人権に関する問題は参考値を上回る正答率だった。 ●正答率が33.6%で、市平均を13.3ポイント下回った。 ●日本国憲法についての問題は市の平均を下回る正答率だった。	・基本的な重要語句の反復学習を行う時間を多くとり、知識・理解の定着に努める。 ・憲法に関する問題の正答率が低い。人権に関しての正答率が高いので、人権と憲法を結び付けて指導することで正答率の向上を図っていく。

宇都宮市立国本中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	69.6	72.5	71.3
	図形	71.6	76.5	68.1
	関数	56.8	61.7	50.3
	データの活用	49.0	54.2	43.5
観点別	知識・技能	67.5	71.5	66.7
	思考・判断・表現	52.1	56.9	45.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

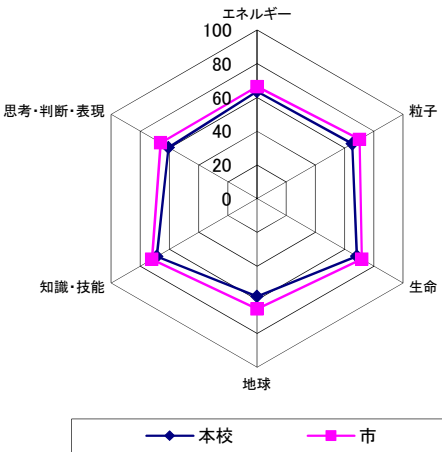
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○同類項をまとめる計算、乗法公式3(2)、平方根の加法5(2)では市の平均を上回る正答率だった。また、無回答率は市の平均に近い問題が多いため、諦めずに取り組んだ様子が見られる。 ●連立方程式6(1)、平方根の乗法5(1)の正答率が、市の平均を5ポイント以上下回っている。計算のルールが理解できていない生徒が多いことが予想される。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な計算を苦手としている生徒が多いため、多くの問題に挑戦できるよう準備する。 ・計算に苦手意識を持っている生徒も多いため、レベル別に課題を準備するなどして、少しでも計算に向き合える時間を作るように指導していく。
図形	○すべての問題の正答率が市の平均を下回っていたものの、無回答率はすべての問題が市の平均より低かった。諦めずに取り組んだ様子が見られる。 ●証明問題16(1)(2)の正答率が特に低く、市の平均を5ポイント以上下回っている。問題から情報を読み取ることを苦手としている生徒が多いことが予想される。	・図形の性質や、証明の手順などの知識の定着が不十分であることが考えられる。既習事項の復習を多く取り入れることや、穴埋めの課題などを実施し、少しずつ知識を定着させるよう指導していく。
関数	○市全体で見ても、正答率が低い問題であった、2次関数の問題9(4)では、市の平均を上回る正答率だった。 ●グラフに囲まれた部分の面積を求める問題10では、市の平均を11.4ポイント下回る正答率だった。融合問題に苦手意識を持つ生徒が多いと予想される。	・式、グラフ、表などから必要な情報を読み取れるよう、反復練習を行う。特に、式に値を代入して値を求める問題では、数と式の領域にもつながる内容なので、時間をかけて指導していく。 ・融合問題については、単元末など発展的な内容を扱うタイミングで図形の復習も行いながら指導していく。
データの活用	○確率12(2)では、市の平均を上回る正答率だった。また、確率12(1)も80%を超える正答率だったことから、組み合わせを理解し、正解にたどり着いた生徒が多いと予想される。 ●箱ひげ図の問題11(1)(2)では市の平均をそれぞれ14.9ポイント、6.6ポイント下回る正答率だった。言葉の意味が理解できていない生徒が多いと予想される。	・データの活用を学習する際、語句が多く、混同しやすいため、それぞれの意味を理解させたうえで、多くの問題練習に取り組むよう準備する。また、箱ひげ図の単元はコロナ休校が重なり、演習不足の面もある。年度末に学習する単元でもあるため、既習事項の復習をする時間を捻出し、学習内容の定着が図れるよう指導していく。

宇都宮市立国本中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	63.6	66.5	61.2
	粒子	65.2	70.2	62.3
	生命	68.4	71.8	65.7
	地球	58.1	65.4	61.0
観点別	知識・技能	68.6	72.0	67.3
	思考・判断・表現	60.6	66.0	58.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

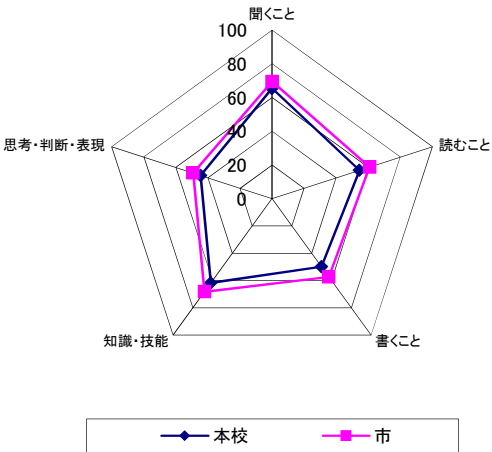
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○差から電力量を求める設問では、市の正答率の平均を3.4ポイント上回る正答率であった。また、電流の性質については、参考値をおおむね上回っていた。 ●仕事とエネルギーに関するすべての設問において市正答率、参考値を下回っており、理解できていない生徒が多いことが予想される。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・指導の際には、物理量の表す意味について、視聴覚教材や演示実験を通してわかりやすく教える。また、計算問題の演習を通して、単位に着目しながら、筋道立てて考え、思考が深まるよう工夫していく。
粒子	○アンモニアの性質に関する設問では、市の正答率の平均を1.9ポイント上回る正答率であった。また、気体の性質、物質の成り立ちについては、参考値をおおむね上回っていた。 ●水溶液とイオンでは、市の正答率を10ポイント下回っている設問もあり、理解できていない生徒が多いことが予想される。	・興味・関心を持って観察・実験に取り組んでいる状態を維持していくとともに、他者の行動を見ていることに終始しないよう、多くの生徒に体験を促していく。計算において小数点の移動に難を感じている生徒が一定数いるので、小学生での学習内容についても適宜丁寧な振り返りを行う。
生命	○シダ植物や消化の仕組みに関する設問では、市の正答率をわずかに上回っていた。植物や動物のからだに関する設問では、おおむね参考値を上回っていた。 ●遺伝の規則性や遺伝子に関する設問は市、全国の正答率ともに下回っているため、理解できていない生徒が多いと予想される。	・身近な植物教材や、自分の身体を使った実験を行うことで、興味・関心を高めるよう工夫を継続していく。学んだ知識の定着について、ワークや小テストを用いてこまめに確認していく。
地球	○火山に関する設問については、参考値を上回っていた。 ●前線の通過と天気の変化については市の正答率・参考値を大きく下回っている。	・資料からの推測や理由の説明記述など、思考・判断・表現に関する問題が多く、難易度が高い。暗記に頼った知識にとどまらず、疑問をもたせ、理由を考えるような指導過程を組み込むことで、科学的思考・表現力の伸長を図る。

宇都宮市立国本中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	65.4	69.4	63.8
	読むこと	54.5	60.8	55.6
	書くこと	49.9	57.5	47.8
観点別	知識・技能	61.8	68.3	64.1
	思考・判断・表現	44.6	49.2	37.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○2(3)対話の内容を聞き、その意味を理解して適切に 応答する問題では、市の平均を上回る結果となった。 また、全体的に無回答がほとんどなく、考えて選ん でいる様子が見られる。 ●大問5の対話の内容を聞き、その意味を理解して資 料を基に英語で答える問題では、市の平均を9. 5ポ イント下回っている。聞かれたことに的確に答える力が 弱いことがわかる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・聞くことに関しては、比較的良く聞き取りができ、理解できて いるが、聞かれたことに適切に答える力が弱いので、聞いて 理解した内容をシェアさせたり、要約させたりする中で、自信 が付くよう指導していく。さらに、的確な答え方を確認していく。 ・聞き取った内容を選択肢から選ぶ問題に関しては、何度も繰 り返していることもあり、比較的よくできている。授業でのリス ニング練習問題も継続していく。
読むこと	○7(1)英文を読み、発言やポスターをもとに適切な作 成しなおしたポスターを選ぶ問題では、市の平均を上 回った。 ●7(3)①対話を読み、対話の流れとポスターから必要 な情報を把握して適切な語(句)を選ぶ問題では、市の 平均を大きく下回った。	・文章の流れを把握し、適切な語を選ぶ問題では、内容に沿っ た語を選ぶことができていない生徒が多いので、語彙を増や すためにも、単語を繰り返し書いたり、意味を理解させたりす る活動を増やしていく。
書くこと	○場面に応じて書く英作文や、自分の考えや意見につ いてまとめた文を書く問題では、比較的市の平均に 近い正答率となった。 ○本校の正答率は、参考値を2.1ポイント上回った。 ●基本的な語順を理解し、正確に単語を並べ替える 問題では、約20ポイントも下回る正答率のものもあっ た。	・自分の考えを自由に書く英作文や、場面に合った英作文に 対しては、前向きに取り組んでいる。授業においても、自分の 意見や考えを表現したいという意欲が見られるので、ワーク シートでの自由英作文や条件作文への取り組みを継続して 行っていく。 ・正確な文法に沿って単語を並べ替える問題では、基本的な 文法が正しく身につけていないことが見受けられるので、基本 文を繰り返し書く活動を多く取り入れていく。

宇都宮市立国本中学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
宇都宮モデルに基づく授業改善	生徒にとって「分かる授業」を展開するために、宇都宮モデルに基づき、めあての明示やペアワーク、グループワークなどの学習形態の工夫、授業の終末での学習内容の振り返りを全教科で実践している。	「学校の授業がどの程度分かりますか」の質問では、肯定割合が1学年で84.6（市84.9）ポイント、2学年で79.5（市81.3）ポイント、3学年で81.2（市81.4）ポイントと、いずれも市の平均を下回った。
学びに向かう力の育成と学力の向上	定期テスト前の2週間、「家庭学習がんばりの記録」を利用し、家庭学習の時間を記入することで、生徒自身の学習への取組状況を可視化し、個に応じて指導助言を行っている。	「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」の質問では、肯定割合が1学年で65.4（市64.1）ポイント、2学年で49.6（市63.0）ポイント、3学年で71.8（市72.0）ポイントと、1学年のみ市の平均を上回ったものの、2学年では大幅に下回っている。 「テストでまちがえた問題は、もう一度やり直している」の質問では、肯定割合が1学年で69.2（市74.0）ポイント、2学年で70.9（市69.2）ポイント、3学年で69.2（市75.2）ポイントと、2学年のみ市の平均を上回った。
家庭学習における学習内容の復習の習慣化に向けた指導の工夫	全学年で家庭学習の習慣化に向けた取組を行っている。また、復習するポイントを生徒が整理しやすいよう、各授業で、その日の学習内容の振り返りを行っている。	「ふだん、学校の授業以外に、1日どれくらい学習していますか（塾、家庭教師含む）」の質問では、平日「ほとんどしない」の割合は、1学年で20.2（市8.4）ポイント、2学年で21.4（市7.6）ポイント、3学年で1.7（市2.7）ポイントであった。また、平日「30分未満」の生徒の割合は、1学年で30.7（市12.2）ポイント、2学年で28.2（市12.6）ポイントと、受験生である3学年を除き、1、2学年どちらとも大きな課題と言える。本校、市ともに、土日「ほとんどしない」生徒の割合は、平日よりも更に増える傾向がある。 また、「授業で習ったことを、その日のうちに復習している」生徒の割合も市の平均を下回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方針

今年度の学習調査の結果から、本校の学力向上に必要な手立ては、①教員の授業力の向上、②学びに向かう力の育成、③家庭学習の習慣化、の3点であると仮定し、それぞれに対して具体的な取組を検討した上で、次年度の重点としたい。

特に、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」の質問や、「ふだん、学校の授業以外に、1日どれくらい学習していますか」、「授業で習ったことを、その日のうちに復習している」の質問のように、市の平均肯定回答率との差が大きかった点については、その具体策を各教科の年間指導計画や単元の指導計画の中に定め、その日に復習させるような課題の与え方などを検討し、状況の改善を目指したい。

また、地域学校園内の小学校と連携し、家庭学習の時間を増加させる方策を検討する。